府および各市の取組

			大阪府
平成２４年新登録結核患者数	７７３人	平成２５年新登録結核患者数(暫定値)	８１８人
（13 保健所）　　り患率	１９．１	（13 保健所）　　り患率(暫定値)	２０．０

【題】　　精神科領域に対する結核対策についての取組み

○精神医療センターにおける精神症状を有する結核患者の受入開始

・大阪府は、壮年、若年結核が多い都市型結核となっているものの、高齢者患者も多く、結核医療とともに合併症への対応が求められるなど、治療形態が多様化している。
特に、精神疾患を併発する患者については、結核病床を有する病院での入院治療の継続が難しく、課題であった。

・精神医療センターの病院の建替え（平成２５年３月　開所）を機に、結核患者の受入を念頭に置いた陰圧個室（5床）を整備することになった。
運用を開始するにあたっては、当分の間は受入対象者を結核病床を有する公的病院(刀根山病院、近畿中央胸部疾患センター、呼吸器・アレルギー医療センター)の入院患者に限ることとし、当該３病院に趣旨説明の上、精神医療センターに転院後も結核治療のコンサルタントを行うことが条件であるとの了承の上で受入を開始。

【役割分担】
本庁の役割：入院のための調整・保健所への情報提供
紹介元医療機関の役割：転院した後の患者の病状変化等に対するコンサルタント及び対応支援
保健所の役割：精神状態が落ち着いたとき又は排菌が止まったときの治療機関の確保の調整
（呼吸器・アレルギー医療センター：精神医療センターの結核患者の医療、看護について研修の場を提供）

紹介元病院	年代・性別	入院日数	備考
呼吸器・アレルギー医療センター	70 代・男性	23 日間	認知症の対応→呼アC
刀根山病院	90 代・男性	18 日間	認知症の対応→施設
呼吸器・アレルギー医療センター	60 代・男性	21 日間	人格障害による入院不適応→呼アC
近畿中央胸部疾患センター	80 代・男性	７日間	認知症（グループホーム）→骨折→大阪病院→近中C
大阪府結核予防会 大阪病院	60 代・男性	９日間	認知症(ケア付き住宅）→大阪病院
刀根山病院	60 代・男性	14 日間	認知症（特養）→呼アC
近畿中央胸部疾患センター	70 代・男性	30 日間	認知症→自宅
呼吸器・アレルギー医療センター	60 代・男性	（対応中）	統合失調症

＊経過の中で大阪府結核予防会 大阪病院からの受入あり

○「精神科病院における結核対策の現状についてのアンケート」の実施　（集約中）
大阪府内の精神病院での結核集団感染事例の経験から、アンケートを実施することにより精神科病院への啓発の機会を提供することが必要と判断。
＜アンケートの概要＞
［対象］：51施設
大阪精神科病院協会に所属する精神科病院(単科・一部他科併設)及び精神医療センター
［方法］：医療法に基づく立入検査手続きにおいてアンケート用紙の送付及び回収を行い、それを基に立入検査当日、病院管理者と保健所職員が結核対策の現状についての情報交換及び啓発を行う。
［参考（途中結果）］：４３施設（回収率８４．３％）
・入院時や長期入院患者についての定期的な胸部X線検査の実施が無い医療機関がある(5施設)
・呼吸器症状（＋）で喀痰抗酸菌検査実施は12施設
・胸部X線検査で陰影があれば喀痰抗酸菌検査をする医療機関は10施設
・主治医（精神科）以外の内科医・放射線科医(常勤・非常勤）のにより胸部X線検査の読影が可能な状態になっている医療機関は34施設であるが、主治医の読影後の他の医師へのコンサルトが必要かどうかの判断が主治医と回答のあった医療機関が32施設
・呼吸器症状が2週間以上続く場合においても検査を実施しないと回答した医療機関が8施設

			大阪市保健所
平成２４年新登録結核患者数	1,142 人	平成２５年新登録結核患者数(暫定値)	1,037 人
結核り患率	42.7	結核り患率(暫定値)	38.7

【題】
リスクグループ健診とＤＯＴＳの充実、西成特区構想における結核対策

【内容】

○　リスクグループ健診
　従前から実施していた日本語学校・介護老人保健施設に加え、平成２５年１０月より区老人福祉センターでの結核健診・健康教育も実施。（健診を１５区・健康教育を２０区において実施）
　結核健診では車いすのままレントゲン撮影が受けられる検診車を導入し、高齢者でも健診を受けやすい環境を整備した。また要精密検査者については、より確実に受診につなげるよう、保健所での紹介状の作成や学校・施設関係者との連携を図っている。
　健康教育についても対象者がより関心をもてるような内容で行い、受診者を増やす努力をしている。

平成２４年度実績

	回数（受診者数）	発見患者数	患者発見率
日本語学校	２５回（1,９９２人）	１０人	0.50%
介護老人保健施設	１９回（1,２７６人）	１人	0.08%

○　ＤＯＴＳの充実
　平成２４年度より喀痰塗抹陰性患者についてはリスクアセスメントを行って段階的な拡充を図り、平成２５年度からは対象を全肺結核患者に拡大している。

○　西成特区構想による結核対策→平成２５年度より西成区が企画・実施

平成２５年４月～１０月の実績

	受診者数	発見患者数	患者発見率
区保健福祉センター結核健診 （毎日実施・生活保護新規申請者等が対象）	1,313 人	７人	0.53%
区保健福祉センター分館結核健診 （あいりん地域内にある。毎日実施）	1,092 人	11 人	1.01%
あいりん地域内健診（検診車による）	1,134 人	７人	0.62%
医療機関（６５歳以上）	308 人	０人	0.00%
医療機関（区北東部）	418 人	１人	0.24%

			堺市保健所
平成２４年新登録結核患者数	２３５　人	平成２５年新登録結核患者数(暫定値)	２３１人
結核り患率	２７．９	結核り患率(暫定値)	２７．５

【題】
堺市の結核対策について

【内容】
「堺市の結核対策の推進に向けた基本目標と具体的戦略について」（平成２３年３月策定）に基づき、各種結核対策の推進に取り組んでいる。

▶ 対象期間：平成２３年度から平成３２年度までの１０か年
▶ 基本目標：平成３２年（２０２０年）までに堺市の結核り患率を「１８以下」に低減させる

《結核罹患率の推移》

年　次	平成 20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年(暫定値)
結核り患率	28．９	23．８	28．５	24．３	27．９	27．５

▶ ５つの具体的戦略及び対策項目別目標と実績

具体的戦略及び主な対策項目	目　標	実績(24 年)
１．適正な治療と患者管理		
○治療失敗・脱落率	１．０%	２．３%
○対面型ＤＯＴＳの実施率（喀痰塗抹陽性患者）	８０%	８５%
２．早期患者発見		
○接触者健康診断実施率（直後～2か月後）	１００%	９６%
○定期健康診断実施報告書提出率（病院・学校・施設従事者）	１００%	85．7%
○届出の徹底（診断日内の届出）	９０%	７４%
３・ＢＣＧ接種		
○ＢＣＧ接種率（生後１歳まで）	１００%	94．5%
４．普及・啓発の推進		
○結核精度管理研修会の開催	継続強化	年１回
５．情報の収集、調査、分析、評価		
○結核対策評価検討会議の開催	定期開催	１回開催

▶ 主な取組内容

○高齢者施設通所者健診の実施
高齢福祉担当部局と連携を図り、デイサービス利用者を対象に平成25 年度は協力施設 3 施設で実施予定。平成 26 年度以降も継続予定。

○ハイリスク層に対する結核健診の実施
ハイリスクの外国籍の方々に対し、患者の早期発見、感染の拡大防止を図るため、平成25 年度に日本語学校の生徒を対象に実施した。

○結核地域医療連携ネットワークの構築とＤＯＴＳの強化
・平成１８年度から地域ＤＯＴＳ支援事業をスタート。平成２４年１月から全新登録患者へ対象を拡大している。薬局ＤＯＴＳの充実を図るべく、地域薬剤師会との連携を強化していく。
・結核病床減の動向に対応すべく、地域医療連携ネットワーク構築に向けた検討を進めていく。

○結核指定医療機関講習会及び結核精度管理研修会の開催

○診療所従事者の定期健康診断実施報告書提出率の向上
平成２５年度から個別勧奨を実施している。

			高槻市保健所
平成２４年新登録結核患者数	49 人	平成２５年新登録結核患者数(暫定値)	57 人
結核り患率	13.8	結核り患率(暫定値)	16.0

【題】
低まん延化に向けた結核対策

【現状】
高槻市のり患率は順調に減少し、平成 24 年には国の目標値（平成 27 年までに 15.0 以下）を下回り、大阪府内で最も低い１3.8 となった。丁寧な患者支援や市民、医療従事者に向けた普及啓発を継続して実施していくことで、さらなる罹患率の低下を目指したい。高齢者層への偏在化が顕著となっていることから、結核特有の症状が現れにくい、陳旧性所見として見逃されやすい、認知症などで自ら症状を訴えにくいといった特徴を捉え、医療機関を始めとする関係機関へ胸部エックス線検査の実施等を注意喚起している。

○新登録結核患者の年代別人数（割合%）

	～39 歳	40～69 歳	70 歳以上	計（人）
平成２3年	9（15.3）	17（28.8）	33（55.9）	59
平成２4年	7（14.3）	16（32.7）	26（53.1）	49
平成２5年（暫定値）	5（8.8）	12（21.1）	40（70.2）	57

【現状の取り組み】
①結核指定医療機関講習会の開催継続
・平成２３年度以降、管内総合病院には感染制御部門を中心とした参加を勧奨している。
・平成２５年度
テーマ　「高槻市の結核低まん延化を目指して～増加する高齢者結核～」
講師：愛仁会高槻病院　呼吸器内科部長　竹中　和弘（医師）
参加者数　４３人
参加機関　病院１７ヶ所、診療所１３ヶ所、薬局６ヶ所
参加職種　医師 17 名、看護師 11 名、薬剤師７名、その他コメディカル8名
・『高槻市の結核 2013』チラシを作成し、市内結核の現状や早期診断のポイントを管内全医療機関に周知。
②介護従事者結核講習会の継続
高齢者結核の増加に伴い、早期発見に焦点を当てた普及啓発を強化
テーマ　「結核の基礎知識と高齢者結核のポイント」
講師：関西大学社会安全学部　教授　高鳥毛敏雄　（医師）
「結核を身近なこととして捉えましょう」と題して、グループワークを実施。
発見の遅れ等の５事例を提示し、多職種で検討。訪問サービスや施設で日々関わる高齢者を結核の早期発見と絡めて理解を深める内容とした。
参加者数　５１名
参加機関　老人ホーム、老健施設、特定施設入居者生活介護、共同生活介護、通所介護、訪問看護、訪問介護、地域包括支援センター
参加職種　看護師 18 名、管理者 16 名、介護士９名、介護支援専門員３名、相談員２名、保健師１名、管理栄養士１名、サービス提供責任者１名

【今後の課題】
①地域の医療機関との連携強化
地域の医療機関の診断能力の向上や結核治療の適正化、意識啓発を図る。
②全数ＤＯＴＳの継続と協力機関の拡大
質を重視したＤＯＴＳ事業を継続し、失敗・脱落率０を目指す。また、支援者を増やすため、患者を取り巻く介護従事者や医療機関、薬局等に向けた DOTS 事業の啓発も継続する。

			東大阪市保健所
平成２４年新登録結核患者数	１０５人	平成２５年新登録結核患者数(暫定値)	１１７人
結核り患率	２０．７	結核り患率(暫定値)	２３．１

【題】

東大阪市における取り組みについて

○平成２５年度の状況

＜平成２５年新登録患者の状況＞

・平成 24 年度より新登録患者の増加がみられた。

・70 歳以上の高齢者が年々増加（平成 24 年度４０％　平成 25 年４９．６％）

・４０歳代以上の単身者（男性）でアルコールや不安定な雇用など多問題をかかえている患者が増加。

＜ＢＣＧ接種の取り組み＞

・　接種年齢が引き上げられるまでは４ヶ月健診に併設していたため接種率は９９％以上であったが現在は別な接種日を設け集団で接種している。接種率を下げないため１０ヶ月時点で未接種者を把握し接種勧奨の案内を送付している。

	新規登録患者						
	患者総数	活動性肺結核				罹患率	(別掲)
		喀痰塗抹陽性	その他結核菌陽性	菌陰性その他	肺外結核	人口10万対	潜在性結核
平成21年	133	49	13	39	32	26.3	30
平成22年	126	54	14	37	23	24.9	18
平成23年	123	58	30	20	15	24.4	22
平成24年	105	43	24	17	21	20.7	44
平成25年	117	50	26	19	22	23.1	49

○平成２６年度の取り組み

・高齢者等のハイリスク層への取り組み

・関係機関との連携による多様なＤＯＴＳの構築

○事例

ケースの概要

年齢：４１歳　性別：男性

合併症：アルコール依存症（アルコールによるトラブルで１１０番通報や病院への救急搬送が頻回にあり）

家族構成：単身　　経済状況：生活保護受給中

治療およびＤＯＴＳの経過

平成 25 年６月下旬よりアルコール専門病院に入院。入院後の胸部エックス線検査にて陰影を指摘され、７月上旬に結核専門病院受診。病型1Ⅱ2　塗抹（±）ＰＣＲ（＋）にて入院。肝機能の改善をみて７月中旬より治療開始となる。入院中は大きなトラブルもなく順調に服薬治療ができ９月 11 日退院。入院していたアルコール専門病院からは結核の治療中は受け入れできないとわれたため、結核治療は近くの開業医に依頼し、アルコールの治療は地域のアルコール専門医療機関につないだ。

ＤＯＴＳはＡランク。アルコール専門医療機関の訪問看護を週５回、開業医の外来ＤＯＴＳを週１回併用し、週６回は服薬を確認するようにした。年末年始は訪問看護が休みとなるため、服薬確認が途切れないよう、また生活の見守りのため障害者総合支援制度によるホームヘルパーを導入した。その結果中断なく６ヶ月間の治療を完遂することができた。訪問看護のない日は時々飲酒もみられたが、毎日見守る人がいることで、規則的な生活が送れるようになり、医療機関のディケアや断酒会への参加もできるようになってきている。生活費のほとんどを飲酒に使い、衣類や生活用品もなかった生活から、徐徐にではあるが改善がみられてきている。ＤＯＴＳは終了したが、引き続きアルコールの治療を継続しながら、ホームヘルプサービスの導入により、生活全般の支援を受けることができている。

まとめ

年々高齢者、単身の不安定就労者などの社会的弱者といわれる人の結核発症が目立ってきている。ＤＯＴＳを順調にすすめるためや再発予防、また患者自身のＱＯＬを高めるためには、医療機関や包括支援センターなどの地域の支援機関との連携により結核治療終了後の生活も見据え、介護保険の早期導入や地域の見守りなど生活全体を支援する取り組みもあわせて行っていく必要があると考える。

			豊中市保健所
平成２４年新登録結核患者数	96 人	平成２５年新登録結核患者数(暫定値)	75 人
結核り患率	24.5	結核り患率(暫定値)	19.0

【題】
中核市移行後２年目。さまざまな対象への結核についての啓発

【内容】
豊中市では 23 年新登録患者数 88 人、結核罹患率が 22.5 であったが、24 年は増加に転じている。
中でも高齢者の割合が７割を占めている。
一方で若い世代のり患もあり、結核に対する正しい知識の普及の必要性を痛感している。

・平成 25 年に取り組んだもの
〇あらゆる機会をとらえての結核に関する啓発（結核予防週間以外）
介護保険事業者連絡会総会での高齢者の結核検診受診勧奨
有料老人ホーム（約 30 件）あての結核検診受診勧奨案内送付
市医師会会員（約 400 件）あての結核患者早期発見依頼文書送付
市内野球場でのプロ野球２軍戦での結核啓発テッシュ（1,400 個）配布
保育所スタッフや障害者施設スタッフへの結核に関する講話
福祉事務所職員へ結核に関する講話

〇全数 DOTS への検討
現在塗抹陽性患者とその他必要な人への DOTS を実施しているが、国の指針を受けて 27 年までに全数 DOTS を目指すため。
全数アセスメント表作成を試行し、全数 DOTS を実施した場合の稼働量増加を予測。
→保健師１人必要と見込み、26 年度予算要求へ。

〇デインジャー層対策
市内でも高齢化率が高く、結核患者も発生している地域の老人福祉センターでの来所者対象の結核検診を行い、結核患者の早期発見と検診の継続受診へのきっかけづくりとして実施。
→21 人受診。要精検者２人。うち一人は肺がん。１人は精査中。

・平成 26 年に取り組む予定のもの
〇市立豊中病院の医師対象に結核の早期発見について講話
過去の症例も交え、発見の大幅な遅れにつながらないように結核を意識した診療をお願いする。

〇全数 DOTS の試行
平成 26 年度予算にて臨時保健師１人を要求。

・今までも継続的にしているものであるが、改善をして効果を上げようと考えているもの
〇コホート検討会への他部局の保健師や看護師の出席
生活保護担当課や肺がん検診担当課の保健師の出席により、DOTS の支援者として協力が得られたり、肺がん検診と結核検診の双方の啓発が行えている。
市立豊中病院の感染担当看護師の出席により、患者発生時の接触者検診について早期に連絡をもらえるなど、顔の見える連携が進められている。

〇市医師会会員あての結核患者早期発見依頼文書に具体的な発見数や診断が遅れた症例等を盛り込む。

・事業の組み立てだけでなく、人材のスキルアップにつなげるようなもの
〇他部局の保健師との連携。
大規模な接触者検診を行う際には保健所の他グループに所属する保健師に出務依頼をし、業務上の協力を得ている。その際結核についての正しい知識を伝えることで、日常の業務に生かしてもらうとともに、感染症業務のイメージを持ってもらっている。